

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(761)2288
担当部課名	生涯学習部	上溝公民館		
事務事業名	公民館活動費上溝公民館	事業コード	15110	

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第1節	生涯学習の推進	~63年度
施策名	第1施策	生涯学習機会の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

教育基本法 第7条、社会教育法 第20条~第42条、相模原市立公民館条例及び施行規則
--

3 事業概要

(1) 事業の目的	(2) 対象(誰、何)
館区内住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目指す。	主に館区内住民
	対象数 約30,000人
(3) 平成13年度事業の内容	(4) 総合計画・実施計画における概要
自主事業の開催(20本延べ82回) 委託事業の開催(9本延べ30回) 共催事業の開催(7本延べ31回) 公民館報の発行(年6回発行) 登録団体の指導・育成(175団体)	なし
	(5) 個別計画の概要
	計画名 上溝公民館活動重点目標
	計画年次 年度~年度
	毎年、運営審議会において学習・文化活動、青少年活動、スポーツレクリエーション活動、広報活動それぞれの年度目標を定め、それに基づき事業計画を策定し、事業を実施している。

4 評価指標

指標名	事業への参加率(定員のある事業のみ、大会・まつり・文化展は除く)、対象事業数:H11・15、H12・18、H13・23	施設の稼働率
指標式	参加者数÷定員×100	利用回数÷利用可能回数×100
指標設定の意図	館区内住民のニーズを把握し、魅力ある事業を多く開催し、より多くの方に事業に参加してもらう。	公民館の利用率の向上を図る。

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	84	69	a 77	b 80	80	
指標	41	46	c 50	d 70	70	
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	2,265	2,059	2,053	2,288	2,141
	人員・時間数					
	人件費	0	0	0		0
	その他経費	0	0	0		0
	合計	2,265	2,059	2,053	2,288	2,141
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1) 達成度・・・目標をどれだけ達成したか		
評価 B ▼	A: 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 83.4%
	B: 一部達成していない(100%> 80%)	
	C: 達成していない (80%>)	
$\frac{a}{b} = \frac{76.6}{80.0} \times 100 = 95.7\%$	$\frac{c}{d} = \frac{49.8}{70.0} \times 100 = 71.1\%$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
理由:	公民館の施設の充実を図り多くの方に利用してもらえるようにする。また、魅力的な事業を多く開催するとともに周知を徹底し、より多くの方に事業に参加してもらえるようにする。	
(2) 必要性・・・時代変化に適応した事業内容か		
評価 B ▼	A: 適応している	理由: 一部事業において長く行っており、現在のニーズに合ったものに見直していく必要があるものもある。
	B: 一部適応していない	
	C: 適応していない	
(3) 経済性・効率性・・・費用対効果は妥当か		
評価 A ▼	A: 妥当である	理由: 効果の数値化は困難であるが、限られた予算の中で事業を実施しており、予算が不足している事業に関しては、受益者負担で行っているため妥当と言える。
	B: 一部妥当でない	
	C: 妥当でない	
(4) 事業の代替性・・・県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 B ▼	A: 代替の可能性ない	理由: 現在でも委託などを含めて地域住民主体で実施しているが、より一層の住民主体による事業展開が図れるよう専門部の設置などをし、役割分担の見直しをはかる必要がある。
	B: 代替の可能性低い	
	C: 代替の可能性高い	
(5) 市民満足度・・・対象市民の満足は得られているか		
評価 B ▼	A: 満足できる	理由: 事業開催時にアンケートを実施しており、全体的に満足しているという意見を得ているが、一部マンネリ化している事業もあり、企画の見直しや新たな事業の開催など改善の余地はある。
	B: 一部満足できない	
	C: 満足できない	
(6) 有効性・・・当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A: 有効である	理由: 生涯学習機会の充実という上位の施策に直結するもので当該事業の充実は不可欠である。
	B: 一部有効である	
	C: 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> 事業の企画段階から地域住民に率先して参加してもらうことにより、ニーズにあった事業が実施することができる。
	コスト改善余地	
	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> 少ない予算の中で多数の事業を行っているため、これ以上地域に負担を求めるのは困難と思われる。

7 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較	相模原市においては、他市町村ではあまり行っていない体育事業を実施しており、その体育事業に関しては、委託化・地域人材の活用などが率先して取り入れられている。
	今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	説明	既存の事業においても一定の成果を得ている。しかし、より多くの地域住民に事業へ参加及び公民館を利用してもらうためには、現在のニーズにあった事業を企画・開催し、周知の徹底をはかる必要がある。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--